

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600085		
法人名	社会福祉法人 ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531番地18		
自己評価作成日	平成22年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年1月29日	外部評価確定日	平成22年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・今年度4月より「グループホームきたがた便り」を家族様宛に毎月1回送付し始めました。入居者様の様子や行事関係のお知らせを中心に、誕生日の写真と同封し一言メッセージを添えたりしています。近頃は自分で色を塗られ、ご家族へのメッセージを書かれる入居者様もおられます。</p> <p>・恵まれた環境を活かし、母体の「美彩の森」へお茶菓子を持って、花を見に出かけたり、きんかんの収穫に行ったりしています。また桜の季節には、庭先の満開の桜の下で、テーブルや椅子を持ち出しお茶タイムを持ち、ご近所の方も一緒にゆっくり過ごされたりしています。</p> <p>共同空間やウッドデッキからは、鴨が泳ぐ広い池や、四季折々変化する鬼の鼻山が見え、皆様、自然に親しみ過ごされています。</p> <p>・畑からの採りたて野菜や毎日届く魚や肉で作る食事に皆様「美味しい」と言われ、食事を楽しみにされています。これからも、ご家族との関わりや、入居者様が自分らしくほがらかに過ごされることを大切にしていきたいと思っております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>豊かな自然に恵まれた場所に立地し、四季折々の風景は、利用者の心を癒し、和ませてくれる。事業所開設にあたっては、グループホームについての啓発活動が十分に行われ、地域の理解を得ている。地域との関わり合いが深い事業所である。行事等を通じて相互に交流したり、日常の散歩等で近所と顔なじみになり、挨拶や会話を交わしている。長年、慣れ親しんだ所に出かけたり、避難訓練に地元消防団や隣保班の方が参加する等、地域と密着している。職員は、利用者を敬いの念で支援している。理念である「自分らしく、ほがらかに」の実現を目指し、常にサービスの質の向上に取り組んでいる。利用者は自己を表現し、職員はこれを優しく真摯に受け止め、支援している。利用者の表情も豊かで、柔らかい。各居室もゆっくりと穏やかに過ごせる場所になっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく、ほがらかに」地域のなかで生活ができるように、管理者と職員は理念を共有しており、毎朝、理念の唱和を行い、実践につなげるようにしている。	「自分らしく、ほがらかに」地域のなかで生活ができるように、管理者と職員は理念を共有しており、毎朝、理念の唱和を行い、実践につなげるようにしている。	事業所開設当初から地域に融け込む事を基底においている。定例の会議等において理念の具体的な姿を話し合っている。毎日の朝会で理念を唱和することによって改めて理念の意識付けをし、心を新たに毎日支援にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	行事の案内や開苑記念日の紅白餅配り、年末の挨拶には利用者様と一緒にご近所回りをして、お会した時は気軽に声をかけ合える関係を築いている。また、毎年開催するお月見会や納涼祭で地元の方と楽しい交流が持っている。町が開催するトロコレースや盆踊り大会には毎年参加をしている。	行事の案内や開苑記念日の紅白餅配り、年末の挨拶には利用者様と一緒にご近所回りをして、お会した時は気軽に声をかけ合える関係を築いている。また、毎年開催するお月見会や納涼祭で地元の方と楽しい交流が持っている。町が開催するトロコレースや盆踊り大会には毎年参加をしている。	地域との自然な付き合いを目指している。催しものの案内を入居者と一緒に近所に配ったり、歳の暮れには一年の挨拶回りもしている。事業所の桜の下で地域の方と一緒に花見をしたりするなど、地域と交流する機会を積極的に作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活かしている	ご家族やボランティアで来られた方に、研修での広めたい資料をお渡ししたり、実践から得た話をする事で認知症への理解を深めていただくように取り組んでいる。	ご家族やボランティアで来られた方に、研修での広めたい資料をお渡ししたり、実践から得た話をする事で認知症への理解を深めていただくように取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催する運営推進会議では、利用者様の動きや行事、取り組んでいること、外部評価のことなど報告を行い、地元区長さんやご家族代表の方、包括支援センターの方々と交えて活発な話し合いがっており、ご意見や情報を頂き、サービスの向上に活かしている。内容は会議録に残している。	2か月に2回開催する運営推進会議では、利用者様の動きや行事、取り組んでいること、外部評価のことなど報告を行い、地元区長さんやご家族代表の方、包括支援センターの方々と交えて活発な話し合いがっており、ご意見や情報を頂き、サービスの向上に活かしている。内容は会議録に残している。	避難訓練への地元消防団や隣保班の参加、非常ベルを近所にも聞こえる場所にも設置した事、接遇についての話し合い等は、会議での声をサービスの向上に活かした例である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的制度(生活保護など)を必要とする利用者様の状況などは、常に市担当者に報告を行い、連携をとりながら、生活に支障が出ないようにしている。また疑問や問題が出てきたときは市へ伺い、助言を頂き協力関係を築いている。	公的制度(生活保護など)を必要とする利用者様の状況などは、常に市担当者に報告を行い、連携をとりながら、生活に支障が出ないようにしている。また疑問や問題が出てきたときは市へ伺い、助言を頂き協力関係を築いている。	運営推進会議への包括支援センターからの出席だけでなく、市役所には度々出向している。福祉担当者とは顔なじみの関係が出来ている。行政からの助言や情報が運営に活かされている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者や職員は、研修や法人の勉強会で身体拘束による弊害を理解しており、日中は施錠はせず、利用者様は出たい時に日光浴や散歩を楽しまれている。また、職員は、身体拘束につながるケアではないのか、日頃から疑問を持ち、お互いに注意を払い、ケアに取り組んでいる。	代表者や職員は、研修や法人の勉強会で身体拘束による弊害を理解しており、日中は施錠はせず、利用者様は出たい時に日光浴や散歩を楽しまれている。また、職員は、身体拘束につながるケアではないのか、日頃から疑問を持ち、お互いに注意を払い、ケアに取り組んでいる。	各種の研修会や法人の委員会、勉強会等を通じ拘束による弊害を十分に認識している。スピーチロックや精神的な拘束がないかも勉強会の項目にあがっている。玄関やデッキへの出入りも自由で閉塞感はない。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、研修や法人の勉強会で、高齢者虐待防止について学んでおり、必要などきは、親族と話し合いを持ち、理解を求めたりしている。また、職員は虐待を見過ごすことがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は、研修や法人の勉強会で、高齢者虐待防止について学んでおり、必要などきは、親族と話し合いを持ち、理解を求めたりしている。また、職員は虐待を見過ごすことがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修や資格取得のための勉強により、権利擁護に関する知識を深めている。必要があると思われるときは、本人や親族、行政機関、関係者と十分話し合い、制度の利用を支援している。	管理者や職員は研修や資格取得のための勉強により、権利擁護に関する知識を深めている。必要があると思われるときは、本人や親族、行政機関、関係者と十分話し合い、制度の利用を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にご本人、ご家族にホームを見学して頂くようにしており、契約時や改定時は文書に沿って分かりやすい説明を行い、不安や疑問点を尋ね、十分な説明に努め理解・納得を得るようにしている。また、解約時も十分な話し合いを持ち理解・納得を得るようにしている。	契約の前にご本人、ご家族にホームを見学して頂くようにしており、契約時や改定時は文書に沿って分かりやすい説明を行い、不安や疑問点を尋ね、十分な説明に努め理解・納得を得るようにしている。また、解約時も十分な話し合いを持ち理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは、普段の会話から要望や意見を聞ける機会が多く、ご家族からはサービス担当者会議の時や面会時に要望や意見を聞いている。要望や意見に応じて、早めの対応を行い、毎朝の申し送りや会議で話し合い、運営に反映させている。文書にて第三者窓口について説明し、掲示もしている。	利用者様からは、普段の会話から要望や意見を聞ける機会が多く、ご家族からはサービス担当者会議の時や面会時に要望や意見を聞いている。要望や意見に応じて、早めの対応を行い、毎朝の申し送りや会議で話し合い、運営に反映させている。文書にて第三者窓口について説明し、掲示もしている。	普段から家族が何でも言え、話しやすい雰囲気作りを心掛け、笑顔と優しい態度で接している。家族の来訪時も、入居者を交えて楽しく会話がなされている。家族へのアンケートも実施し、要望や意見には迅速に対応している。	家族からの要望や気づき等を十分に受け止めていない場合も考え、家族の声なき声に耳を傾げるための機会が設けられる事を更に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議で職員から意見や提案があっており、代表者や管理者は、その内容を検討して可能な限り、できるだけ意見や提案を運営に反映させるようにしている。	毎月のグループホーム会議で職員から意見や提案があっており、代表者や管理者は、その内容を検討して可能な限り、できるだけ意見や提案を運営に反映させるようにしている。	理事長、施設長、主任と現場職員との風通しが良く、定例の会議だけでなく、日頃から気づきや意見が出され、サービスの質の向上や運営に反映されている。申し送りノートも有効に活用されている。また、職員は管理者等による指導を素直に受け入れ、自己伸長を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価を職員全員に提出させており、個人面談も行っている。それに主任や管理者が評価し、賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。	年に2回自己評価を職員全員に提出させており、個人面談も行っている。それに主任や管理者が評価し、賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として介護支援専門員試験と介護福祉士試験の受験対策勉強会を開催しており、対象者には参加する機会を設けている。また老施協やグループホーム協会主催の研修会にも可能な範囲で参加の機会を設けている。	法人として介護支援専門員試験と介護福祉士試験の受験対策勉強会を開催しており、対象者には参加する機会を設けている。また老施協やグループホーム協会主催の研修会にも可能な範囲で参加の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を研修会に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事には声をかけ参加をしてもらい、また参加し、交流を図り質の向上に努めている。	職員を研修会に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事には声をかけ参加をもらい、また参加し、交流を図り質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、ご本人に必ず会うようにしており、困っていることや不安、要望などの思いをよく聞くようにしている。事前に、聞いたことを全職員に伝え、安心して過ごしてもらえるよう関係づくりに努めている。	利用前に、ご本人に必ず会うようにしており、困っていることや不安、要望などの思いをよく聞くようにしている。事前に、聞いたことを全職員に伝え、安心して過ごしてもらえるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学の際や、入居申し込みにいられた時に、介護で困っていることや要望などを十分に聞いて、職員はご家族の抱える思いを受けとめて、関係づくりに努めるようにしている。	ホーム見学の際や、入居申し込みにいられた時に、介護で困っていることや要望などを十分に聞いて、職員はご家族の抱える思いを受けとめて、関係づくりに努めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を十分に聞いて、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設のことなど分かりやすく説明し、紹介をして在宅サービスを利用され始めたりしている。	相談内容を十分に聞いて、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設のことなど分かりやすく説明し、紹介をして在宅サービスを利用され始めたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	皆様、洗濯物たたみや料理の準備、食器洗い、掃除などその方の得意なことや好きなことを、日頃からよく取り組まれており、職員も一緒に行い暮らしを共にする関係を築いている。また、よく分からないことなど、利用者様に尋ねながら行うようにしている。	利用者様の体験談や会話の中から学ぶところは学び、その方の得意とする分野で力を発揮してもらい、自信を持って生活できるよう配慮している。又、喜怒哀楽が激しい時は、そばに寄り添い共感する事で落ち着いて頂いたり、支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、衣替えや色々なお願いをしており、利用者様の状態によっては、すぐに話し合いを持ち、本人を支えていく関係を築いている。また、言われたことや思いを伝え、本人とご家族の絆を大切にもらうようにしている。	利用者様の状況報告に努め、家族様への思いや願いなどを伝える事で、理解をして頂き、職員と家族様が互いに協力することで、本人の生活を支える関係が出来ている。又、家族様の思いなどを本人に伝える事で、家族間のより良い関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お正月やお盆に外泊や外出を支援し、ご家族や親戚と過ごし喜んでおられる。受診の折にご家族と馴染みの場所に寄って来たりもされている。また、お花見や盆踊りなど馴染みの場所に出かけたり、希望により自宅回りをドライブしたりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	家族様や知人の方が面会に来られた時は、プライバシーに配慮し、ゆっくりと話が出来るよう居室案内をする等の支援に努めている。又、家族様に働きかけ受診の際、馴染みの店で買い物やされたり、苑外活動で自宅近くを通ったり、馴染みの場所や人との関係が途切れないようにしている。	これまでの生活歴の中から、馴染みの地域の様子や人間関係の把握に努めている。受診や買い物の時に、これまで馴染んできた地域やお店に寄ったりしている。希望により自宅付近を通るドライブもある。顔なじみになった近所の方との挨拶や会話もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分たちでソファーに集まり、会話や歌を和やかに楽しんでいる姿が、毎日見られている。また朝食と一緒に出来れば利用者様同士の支え合う関係ができています。自分から関わることができない方には、職員も一緒に会話やレクリエーションに参加し利用者様同士の関わりが深まるよう支援している。	関係が出来上がり、仲良く話をされる方々もおられる。又、そうでない方にはレクリエーションや行事などを通して、利用者様同士が関わり合う機会を作り、職員が関わる事により孤立せず、支え合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してからも、本人様に会いに行き喜んでもらっている。また、必要に応じて、ご家族と話し合ったり、相談に応じ支援に努めている。	利用が終了してからも、本人様に会いに行き喜んでもらっている。また、必要に応じて、ご家族と話し合ったり、相談に応じ支援に努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中で、表情や言葉に注意し希望や意向の把握に努めており、必要に応じて、会議や申し送りの場で話し合い、内容によってはご家族に協力をお願いし、本人本位に検討するように努めている。	日々の会話の中で、表情や言葉に注意し希望や意向の把握に努めており、必要に応じて、会議や申し送りの場で話し合い、内容によってはご家族に協力をお願いし、本人本位に検討するように努めている。	日常の会話やつぶやき、行動、ちょっとした所作、表情等から、また、家族からの情報を含む諸々の情報から、出来る限り、利用者の意向を把握している。入居者が率直に自分の気持ちを表現している場面も見受けられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人にお会いし、ご家族や関係者からこれまでの生活歴や日々の暮らし方など聞き取りを行い、フェイスシートに記入し、全職員が、必ず把握するようにしている。	利用者様や家族様との会話や関わりの中で、情報収集し、その時の表情や言葉等で、その方の思いなどをくみとり、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケースに1日の過ごし方、心身状態、取り組まれたことなど毎日記入し、現状の把握に努めている。急を要することは、職員が出勤時に必ず目を通すことになっている申し送りノートで把握できるようになっている。	個別ケースに日々の生活状況や、健康チェック等を記入し、気づきある時は申し送りノートや朝礼にて情報交換し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に生活の意向や要望を聞き、かかりつけ医師の意見やケアチェック表からの課題、職員やご家族とのサービス担当者会議での意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	本人の生活状況等を把握し、家族様の要望、本人の希望、主治医の照会内容等を踏まえ関係者で意見、アイデアを協議し、それを基に介護計画を作成している。	利用者や家族の暮らしに対する意向や生活状況、諸情報、生活目標等をもとに、施設サービス計画書が作成されている。一人ひとりに合った実現可能な目標やサービス内容が家族や全職員で検討され、介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に、日々の健康チェック、食事・水分摂取量、日々の様子やケアプランに沿ったケアの実践、気づきなどを日々記入している。職員間でその情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かすように努めている。	個別ケースに日々の様子や気づき、健康チェック、食事水分摂取量等を記入し、情報の共有に努め、実践を基に介護計画の見直しに役立てている。又、新しい情報は申し送りノートや朝礼等で伝達され、気づきある時は、すぐに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やその時々ニーズに対応して、十分な話し合いのもと、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。	本人や家族の状況やその時々ニーズに対応して、十分な話し合いのもと、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアグループの方々が定期的に訪問され、コミュニケーションにより利用者様が生き生きとされている。また、年2回行われる避難訓練には、消防署、地元消防団、地元・近隣の方々の多数の応援や指導があっている。	地元のボランティアグループの方々が定期的に訪問され、コミュニケーションにより利用者様が生き生きとされている。また、年2回行われる避難訓練には、消防署、地元消防団、地元・近隣の方々の多数の応援や指導があっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、契約時に本人や家族と十分話し合い、希望を大切に、今までのかかりつけ医を継続できるよう基本的には家族対応をしてもらっている。受診が困難な方には、往診を依頼したり、ホームより受診同行を行っている。病院へ情報は提供し、適切な医療を受けられるように支援している。	受診については、契約時に本人や家族と十分話し合い、希望を大切に、今までのかかりつけ医を継続できるよう基本的には家族対応をもらっている。受診が困難な方には、往診を依頼したり、ホームより受診同行を行っている。病院へ情報は提供し、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者や家族が希望するかかりつけ医で、入居前の医療機関での受診がほとんどである。必要に応じて職員や家族による付き添いを行っている。協力医療機関や歯科医の往診も行われている。家族や医療機関との情報も共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者様の健康状態に気を配り、変化を見つけた時は直ちに看護師へ伝えて相談し(看護師は常勤しており24時間連絡可能になっている)、適切な受診や看護を受けられるようにしている。	介護職員は、利用者様の健康状態に気を配り、変化を見つけた時は直ちに看護師へ伝えて相談し(看護師は常勤しており24時間連絡可能になっている)、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は、情報提供を行い、定期的に容体訪問を行っている。その際、医師や看護師より情報提供を受けており、利用者様が安心して治療ができるように、コミュニケーションに努めている。	利用者が入院された場合は、情報提供を行い、定期的に容体訪問を行っている。その際、医師や看護師より情報提供を受けており、利用者様が安心して治療ができるように、コミュニケーションに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症となられた場合、当ホームでできること、医療体制面の説明を行い、医師からの指導を踏まえて、ご本人・家族と十分に話し合いを行い、ご本人・家族の希望を優先的に考慮し方針を決めている。	重症となられた場合、当ホームでできること、医療体制面の説明を行い、医師からの指導を踏まえて、ご本人・家族と十分に話し合いを行い、ご本人・家族の希望を優先的に考慮し方針を決めている。	契約時に、重度化した場合における対応の指針や急変時の対応について、本人や家族に十分に説明し、納得を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて救急蘇生法やAEDの使用法、急変時の対応の仕方などの勉強会が定期的にあっており、勉強会に参加をして実践力を身に付けるようにしている。	法人にて救急蘇生法やAEDの使用法、急変時の対応の仕方などの勉強会が定期的にあっており、勉強会に参加をして実践力を身に付けるようにしている。	/	/
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練には、地元区長、近隣の方、行政、消防団と連携した地域一体による訓練が実施できた。また前回の改善点(非常口の照明・手すり・スロープ設置)を対処することで効果的な避難に結びついている。防火管理者講習や法人の委員会への参加で職員の防災知識の向上ができています。	年2回の消防訓練には、地元区長、近隣の方、行政、消防団と連携した地域一体による訓練が実施できた。また前回の改善点(非常口の照明・手すり・スロープ設置)を対処することで効果的な避難に結びついている。防火管理者講習や法人の委員会への参加で職員の防災知識の向上ができています。	年間に、昼間と夜間それぞれ1回ずつの避難訓練が行われている。地元消防団や隣保班も参加し、地域と一体になった避難訓練である。非常口の明示や照明、スロープの設置等改善への取り組みがなされている。	停電等の事例もあり、風水害時における対応についても、検討する計画がなされている。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対しては、目上の方としての敬意を職員は持っており、一人ひとりの個性や誇りを大切に思い、言葉かけや対応を行っている。また、トイレの声かけなどプライバシーを傷つけないように配慮して、職員は対応している。	利用者様に接する時、目上の方への敬意を持ち、その方の家族構成や生き方を考慮し、その方に合った言葉かけをする様、心掛け対応している。	年長者としての敬意を払いながらも、ごく自然な様子で入居者と接している。あからさまな介護や言葉かけではなく、さりげない支援が行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりの思いや要望が、日頃の会話からよく聞かれており、職員は気軽に思いが言える雰囲気作りを常に大切にしている。また、喫茶クラブなどでは、自分が飲みたいものや食べたいものを選んでもらい喜んでもらっている。	一人ひとりの性格を把握し、その方が自然に希望や意思表示が出来るような、雰囲気作りに努め、自己決定につながる為の言葉かけをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	玄関のベンチでひとりゆっくりと過ごされたり、ソファーに集まり会話を楽しまれたり、自室に本やテレビを見に戻られたり、散歩に出られたり、お一人おひとりのペースで過ごされることを大切にしており、レクリエーションなども好きなことに取り組めるよう配慮し支援している。	起床時間や朝食の時間など、その方の生活リズムに合った対応をし、室内散歩やウッドデッキでの外気浴など見守りながら、その方の希望通りに、自由に過ごせるような支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のおしゃれを大切にしてもらいながら、整容の援助をさりげなく行っている。浴後はクリームを塗ってもらい、肌がきれいに保てるようにしている。	その方の好みや習慣を尊重し、整容の援助をしている。愛用品などが無くなった場合は、家族様へ連絡をし持って来て頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の仕分けや皮むき、おかずのつぎ分け、食器洗いなどお一人おひとりの力を活かして、楽しく取り組まれており、食事も利用者様と職員と一緒に食卓を囲み、皆様食事を楽しみにされている。	誕生日の希望メニューや行事ごとの特別メニューを用意し、毎日の献立メニューもホワイトボードに書き出している。又、残存能力を活かした配下膳や調理の下準備など、その方の能力に合った役割を、職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。	職員もさりげなく入居者の間に入って、同じ食事をいただきながらの家庭的で穏やかな食事が行われている。調理の前準備や食事前後の役割りを職員と一緒にしたり、食器を日光消毒している方もいる。食事量に配慮が必要な方には、盛り付けの工夫がある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に基づき、栄養バランスやカロリー計算ができた食事をその方の習慣などに応じて提供している。水分摂取が少ない方には、ポカリゼリーやコーヒー、黒砂糖を混ぜたりして、その方の好みで、水分量が一日を通じて確保できるように努めている。食事や水分摂取量は記録している。	管理栄養士のバランスの取れた献立に基づき、主治医の意見書なども踏まえ、その方に応じた食事量を提供している。又、水分補給は表に記録し、一日の水分量の確保に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き促しや一部介助により、口腔内の清潔保持ができており、義歯の方は夜間は預かり、毎晩義歯洗浄剤に浸けている。	毎食後の義歯や自歯の洗浄を、能力に応じてして頂き、出来ない場合でも職員が一部介助することにより、清潔保持が出来ている。夜間帯は、義歯を預かり義歯洗浄剤に浸け管理をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声かけや定時トイレ誘導により、失禁を減らし、トイレでの排泄が続けられるように、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定時誘導や声掛けにより、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、自立へ向けた支援をしている。夜間帯は特に、排泄チェック表を活かしトイレの定時誘導をしている。	排泄に至る生活リズムや習慣が、一人ひとり把握されている。利用者の様子から尿意を察知し、自尊心を損なわない様にさりげない誘導が行われている。夜間は特に排泄チェック表を有効に活用しての支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の及ぼす影響を学び、水分を多目に摂ってもらう工夫をしたり、ヨーグルトや畑で採れたさつま芋のおやつを提供したり、体を動かすレクに取り組みたりしている。また、かかりつけ医に相談をして対応したりしている。	家族様が、毎週届けられるお茶を提供したり、当苑の畑で採れたさつま芋を15時のお茶の時間に提供したりしている。又、室内散歩や金魚運動の声掛け、誘導も行っている。カスピ海ヨーグルトを作り提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を拒否される時には、次の日に入ってもらふなどの対応をしている。また、その方に合った福祉用具を使用し、安全な入浴を支援している。プライバシーに配慮して、お一人ずつゆっくり入浴してもらっている。	温度や手順、入浴時間など一人ひとりの希望に合わせて、入浴して頂いている。又、身体的リスクのある方は、安全性を考慮し福祉用具を使用するなど、楽しく入浴する為の支援を行っている。	各人の希望により、ゆっくりとした入浴が行われている。職員配置上、毎日の入浴ではないが、希望する入居者には、出来るだけ希望に応じている。足湯を楽しむ方もいる。冬場は、脱衣場の室温に配慮し、暖房器具を置いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調や年齢に応じて、1時間ほど昼寝をしてもらい、夜は生活習慣に応じてそれぞれの時間に休まれている。また足元に湯たんぽを置いたり、毛布を干したりして気持ちよく眠れるようにしている。寝付かれない時には、温かい飲み物を提供し、暫く寄り添い安心して休んで頂けるよう支援している。	一人ひとりの体調や希望に応じて、午睡をとって頂いたり、室内の温湿度調節をし、気持ち良く休んで頂けるよう支援している。又、寝付かれない時は、マッサージや飲み物の提供をし、会話を持つことにより安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書を個人のケースに綴じて、いつでも確認ができるようになっており、一人ひとりがどのような薬を服用しているか理解している。薬は個別の袋に分け、二重チェックを行い、名前、日付けを確認し服用してもらっている。症状の変化にも十分注意を払っている。	薬説明書を個人のケースに綴じて、いつでも確認ができるようになっており、一人ひとりがどのような薬を服用しているか理解している。薬は個別の袋に分け、二重チェックを行い、名前、日付けを確認し服用してもらっている。症状の変化にも十分注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆様、それぞれの好みや力を活かせる役割を持たれており、張り合いや喜びに繋がっている。また、その方の好きな飲み物を頂かれたり、好きなレクリエーションをされ、楽しみを持てるような支援をしている。	台所仕事や洗濯物たたみ等、その方の生活歴や能力に応じた役割を持って頂き、張りのある生活が出来るよう支援している。又、気分転換も兼ねた自宅近辺へのドライブなど、楽しんで頂く様な支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物希望されたら、一緒に買い物に出かけたり、外に行きたいと言われたら、母体の公園にお茶やお菓子を持って出かけたり、花を見て回ったりしている。また、希望により、初詣やあじさい見学、紅葉見学など季節ごとの外出やデザートを食べに出かけたり、自宅近辺のドライブをしたりしている。	家族様への働きかけにより、行きつけの美容院への外出や、病院受診を兼ねたショッピングなど、家族様による外出が出来るよう支援している。	近所の散歩や隣接する福祉施設の広い敷地内を散策したりしている。希望により買い物に出かけたり、近くの公園や、喫茶店に出かけることもある。季節ごとの外出もあり、最近では全員そろっての初詣があった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を所持できる方には所持してもらい、パンや饅頭などを自分で選んで購入され、楽しみにされている。	希望に応じて、お金を所持して頂き、苑外活動や移動販売など、本人の希望により使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族からの手紙に対し、はがきを書いていただく支援をしたり、電話を希望された時は、ご家族と直接話していただけるよう支援している。また、ご家族への毎月のお便りに色を塗ってもらったりしている。	その方の状態、希望により家族様に電話を掛け、話して頂くことにより希望を伝える事が出来たり、納得されるような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者様にとって居心地がいい場所であるよう温度や光、音量や換気などに職員は配慮しており、定時に温度・湿度の記録をして衛生委員会に毎月提出している。また、入居者様が作った干支の貼り絵や季節ごとの切り絵などを飾り季節感や生活感を大事にしている。	共同空間には観葉植物が置いてあったり、各テーブル等には季節の花が飾られている。又、菜園や花壇などの外の景色も楽しめ、心が和む場所になっている。	自然の光が差し込み、静かな共有空間である。広い木造りのデッキには、いくつものベンチが置いてあり、周りの景色が楽しめる。居間には畳の間や床暖房の設備があり、ゆっくりと過ごせる場所にもなっている。一人で過ごしたい時のための椅子もある。野の花や切り絵は、季節を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間、談話コーナー、ウッドデッキ、玄関ベンチなどでひとりで過ごしたり、利用者様同士で会話を持たれたり、洗濯物をたたんだり、昼寝をしたりと思い思いにそれぞれの場所で過ごされている。	気の合った利用者様同士、テーブルや談話コーナー、ウッドデッキや玄関ベンチなどでくつろがれたり、畳の間において話をしながら洗濯をたたんだりされている。又、独りでゆっくりとソファに座られたり、畳の間に寝転ばれたり、思い思いに過ごして頂けるスペースを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、仏壇や馴染みのソファ、テレビ、写真、本などを持って来られ、居室で本を読まれたり、テレビを観たりして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をされている。	本人や家族様と相談し、愛用の品やソファ、ぬいぐるみ、暖簾など、その方に合わせた部屋のアレンジをし、居心地良く過ごせるような工夫をしている。又、本人の希望でテレビを設置され、自分の見たい番組を楽しまれている。	各居室がそれぞれの方の存在を表す、安心して落ち着いて過ごせる場所になっている。観葉植物、本、ぬいぐるみ、写真、使い慣れた座椅子、テレビ、仏壇、その他本人のお気に入りの物や馴染みの物が見受けられ、その人らしく過ごせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、それぞれに違う花の絵が描かれた表札が掛けてあり、分からない方のために、トイレまでの矢印や大きめの貼紙で分かりやすいように工夫をしている。また、廊下やトイレには手すりを付け、自立した生活が送れるように工夫している。	居室には、それぞれに違う花の絵が描かれた表札が掛けてあり、分からない方のために、トイレまでの矢印や大きめの貼紙で分かりやすいように工夫をしている。また、廊下やトイレには手すりを付け、自立した生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない